

たまねぎレポート【第438号】



令和6年4月26日

阪南青果株式会社

社内報

3月の天候の特徴は、気温は温かい空気に覆われやすく、北・西日本で高くなった。降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすく大雨となった所もあった。東・西日本の太平洋側でかなり多くなった。3月後半から4月前半には、全国的に寒の戻りの低温が続き、西日本では桜の開花が平年より遅れた。東・北日本では開花が早まった。

気象庁の5～7月の3か月予報によると、この期間の平均気温は、北日本で高い確率50%、東・西日本で高い確率60%。沖縄・奄美で高い確率70%。降水量は、西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本の日本海側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の3月の野菜の販売量は、197,838トン前年比4%減、前月比100%。平均単価はkg¥277前年比112%(前月比113%)。市場別には多少の差はあるが、総じては品薄高傾向であった。市場別の販売量の前年比と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg¥227前年比108%。東京市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg¥306前年比115%。名古屋市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg256前年比110%。大阪本場の販売量は前年比99%、平均単価はkg¥267前年比109%。福岡市場の販売量は前年比104%、平

均単価はkg ¥206前年比109%となっている。

建値市場(拠点市場)の3月の玉葱の販売量は28,086トンで前年比106%(前月比128%)、平均単価はkg ¥136前年比111%(前月比80%)となっている。特に、年初には北海道産地からは、年内出荷の前進化と越年の在庫減が報じられていたが、3月の市場は前年を上回る入荷増となり、販売環境は厳しさを増した一方、府県の極早生は生育の前進化で入荷量は前年比大幅増となったものの、順調な販売が続いた。

3月の市場別の玉葱販売量と単価は、札幌市場の販売量は3,709トン前年比101%、平均単価はkg ¥107前年比105%。東京市場の販売量は10,447トン前年比107%、平均単価はkg ¥154前年比114%。名古屋市場の販売量は6,989トン前年比107%、平均単価はkg ¥124前年比108%。大阪本場の販売量は4,368トン前年比106%、平均単価はkg ¥134前年比110%。福岡市場の販売量は2,573トン前年比108%、平均単価はkg ¥142前年比114%となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷量は、104,779トン前年比94%、前月比(116%)。旬別の前年比は、上旬5%減、中旬8%減、下旬5%減、となっている。平均価格はkg ¥306前年比115%(前月比106%)。旬別では、上旬 ¥279(前年比104%)、中旬 ¥304(同115%)、下旬 ¥332(同126%)となっている。

主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、バレイショが前年比115%、タマネギが107%、ナマシイタケが105%、など3品目。前年比減の品目は、サトイモが前年比79%、ナスが81%、ハウレンソウが83%、キュウリが86%、など12品目。価格は前年比全面高で特に高い品目は、ハクサイがkg

¥141で前年比162%、ネギがkg342で149%、キュウリがkg¥458で132%、キャベツがkg¥112で131%、ホウレンソウがkg¥542で121%、など15品目。前年比安の品目はなし。

東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	104,779	94.1	97.4	306	115.0	115.5
た ま ね ぎ	10,447	106.5	120.2	154	114.1	82.8
キ ャ ベ ツ	15,208	87.5	107.2	112	131.1	136.6
は く さ い	6,469	96.9	60.6	141	162.4	210.5
だ い こ ん	8,100	91.1	95.7	105	116.1	115.4
に ん じ ん	5,680	91.8	103.3	201	128.8	147.8
ば れ い し ょ	7,496	114.5	99.2	152	101.5	110.1
レ タ ス	6,100	86.8	90.7	248	123.1	123.4
ね ぎ	3,874	94.4	94.8	342	148.6	100.6
ト マ ト	4,593	87.6	93.8	467	108.8	123.9
き ゆ う り	4,900	86.1	118.2	458	131.5	92.2
か ぼ ち ゃ	1,829	184.5	115.5	199	44.8	84.3
な が い も	682	97.3	101.5	342	87.5	101.8
れ ん こ ん	817	89.3	86.6	417	146.7	113.6
に ん に く	172	73.5	89.6	1,068	133.7	100.7

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷販売量は8,695トン、前年比

93%(前月比120%)、主力は北海物で、北海物の入荷販売量は7,036トン前年比101%、占有率は67%で前年比4ポイントダウン。静岡物は1,454トン前年比90%、占有率14%前年比3ポイントダウン。佐賀物は830トン前年比153%、占有率は8%で前年比2ポイントアップ。長崎物は620トン前年比171%、占有率6%前年比2ポイントアップ。中國物は280トン前年比182%、占有率3%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg ¥ 154前年比114%(前月比83%)。産地別では、北海物はkg ¥ 130前年比115%(前月比75%)。静岡物はkg ¥ 212前年比107%(前月比94%)。佐賀物はkg ¥ 204前年比113%。長崎物はkg ¥ 205前年比120%。中國物はkg ¥ 125前年比89%。となっている。

4月に入ってから、北海物の入荷は予想より多く、府県の早生物の入荷は曇雨天の影響で予想より少なく、堅調相場が続いた。昨今では北海物はほぼ終了し、事前契約分のL大 ¥ 2,800、L ¥ 2,600の買付品を残すのみとなっている。府県の新物は長崎は終盤で佐賀主力となる。JA白石・JA唐津と商系物が入荷しているが、雨後の収穫か？乾燥不良品が多く、品質は今一である。天候が安定すれば出荷は本番を迎え、市況は軟調をたどると見ているが、数量的には予想より少なく、価格は前年比高の展開になると見ている。

4月1日から20日までの玉葱販売量は、7,112トン前年比83%(前月比105%)、平均単価はkg ¥ 144前年比128%(前月比92%)。産地別の販売量と平均価格は、北海物は数量4,405トン前年比97%、平均単価はkg ¥ 123前年比106%。佐賀物は数量2,032トン前年比66%、平均単価はkg ¥ 180前年比168%。静岡物は数量174トン前年比52%。平

均単価はkg ¥ 169前年比150%。長崎物は数量144トン前年比45%、平均単価はkg ¥ 192前年比191%。となっている。北海物の入荷は予想を大きく上回り、チリ貧相場となった。府県の新物の入荷は天候不良に阻まれ予想を大きく下回り高値相場で推移しているが、2Lの動きが鈍い。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は6,989トン前年比107%（前月比145%）で前年比増、前月比大幅増となっている。主力は北海物で数量は5,788トン前年比107%、占有率は83%で前年と同じ。静岡物は631トン前年比93%、占有率9%で前年比1ポイントダウン。愛知物は428トン前年比111%。総平均単価はkg ¥ 124前年比109%（前月比78%）。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥ 107前年比106%。静岡物はkg ¥ 208前年比110%。愛知物はkg ¥ 191で前年比122%。となっている。

4月に入り、愛知物の入荷が本番を迎えたが、数量的には意外に少なく、荷動きも今ひとつで不足感はなく、充分間に合っている状態であった。北海物の入荷は、引き続き順調だが、荷動きは今ひとつで、上値は殆どなく中値以下の販売が主力で、在庫は再び増加傾向となった。昨今では、愛知物の入荷は日量30トン超になって安定化して来たが、兵庫物を呼び込むほど売れ行きは良くない。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は4,368トン前年比105%（前月比111%）、前年比、前月比とも増となっている。産地別の販売量は、北海物が3,224トン前年比108%（前月比105%）、占有率74%

前年比2ポイントアップ。長崎物が570トン前年比110%(前月比532%)。兵庫物が230トン前年比84%。静岡物が174トン前年比84%。佐賀物が120トン前年比166%。総平均単価はkg¥134前年比110%(前月比83%)で、前年比高、前月比大幅安となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥111前年比106%(前月比76%)。長崎物はkg¥189前年比124%。兵庫物はkg¥215前年比124%。静岡物はkg¥215前年比108%となっている。

4月に入ると、北海物と府県物のバトンタッチの時期だが、天候不順で府県物の生育の停滞と出荷の後ズレで、バトンタッチが遅れた。中旬には新物が増加し、北海物の減少で新物主力の販売となり、新物は値下り傾向となったが、主産地のJA白石は指値が高く買参人に敬遠され売れ行き不振に見舞われた。入荷減少の北海物は引き合い回復で強保合に転じた。昨今では、新物産地は曇雨天が続き入荷が少ないことで保合。北海物は直送品にも発芽が散見され、仲卸の警戒心が強まり、荷動きは今ひとつ。

4月1日～20日までの玉葱の販売量は3,018トン前年比108%(前月比98%)。平均単価はkg¥132前年比128%(前月比97%)。産地別の販売量と平均単価は、北海物は1,875トン前年比139%、平均単価はkg¥108前年比104%。長崎物は451トン前年比70%、平均単価はkg¥173前年比175%。佐賀物は394トン前年比94%、平均単価はkg¥161前年比179%、兵庫物は274トン前年比77%、平均単価はkg¥174前年比158%となっている。北海物は商系の在庫増を反映して入荷が多く、新物の長崎・佐賀・兵庫は天候不順と生育停滞で入荷は前年を下回った。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は、2,573トン前年比108%（前月比137%）で、前年比増、前月比大幅増となっている。主力は北海物で、販売量は1,577トン前年比101%、占有率61%前年比4ポイントダウン。長崎物が453トン前年比107%、占有率18%で前年と同じ。佐賀物が238トン前年比139%。中国物が202トン前年比103%となっている。総平均単価はkg¥142前年比114%（前月比79%）となっている。産地別の平均単価は北海物がkg¥131前年比113%、長崎物がkg¥175前年比113%。佐賀物がkg¥170前年比115%。中国物がkg¥116前年比100%となっている。

4月に入り、長崎・佐賀の新物の出荷は最盛期を迎え、日毎に増加傾向で、相場は軟化傾向となったが、産地JAの指値が高く中旬に入っても10kgL¥2,200で採算割れの販売が続いた。北海物は、入荷は日々減少して在庫も順調に片付き、売れ行きも回復歩調で一安心となった。昨今では長崎物は終盤を迎え入荷は日々減少。佐賀物は最盛期となったものの、大型連休を控え荷動きは良好で品薄気味である。北海物は在庫もなくなり直送品の販売が主力だが、販売先から発芽のクレームが多発し、切り上げを早めたい状況である。

4月1日～20日の玉葱の販売量は1,632トン前年比96%（前月比100%）で前年比増、前月比100%となっている。平均単価はkg¥138前年比136%（前月比97%）で前年比大幅高、前月比安となっている。

4月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量127トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800 ~2,600、L大 ¥3,000~2,200、L ¥3,000~2,000、
M ¥1,800~1,600。

佐 賀 20kgDB2L ¥3,500~3,000、 L4,500~3,800、 M ¥4,500~3,800。

【太田市場】 販売量334 トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥3,000 ~ L大 ¥2,700 ~ L ¥2,700 ~

佐 賀 20kgDB2L ¥2,200~2,000、 L ¥3,200~3,000、 M ¥2,800~

佐 賀 10kgDB2L ¥1,400~1,200、 L ¥1,600~1,400、 M ¥1,500~1,400。

長 崎 10kgDB2L ¥1,400~1,200、 L ¥1,600~1,400、 M ¥1,500~1,400。

【名古屋北部市場】 販売量78トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800~2,700、 L大 ¥2,500~2,400、 L ¥2,400~2,200。

愛 知 10kgDB2L ¥1,400~1,200、 L ¥1,600~1,400、 M ¥1,400~1,300。

愛 知 20kgDB2L ¥2,800~2,500、 L ¥3,000~2,800、 M ¥2,800~2,600。

【大阪本場】 販売量145トン 弱保合

北 海 20kgDB2L なし L大 ¥2,800~2,500、 L ¥2,500~2,400。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,200~ 900、 L ¥1,500~1,200、 M ¥1,400~1,200。

佐 賀 10kgDB2L ¥1,100~ 900、 L ¥1,400~1,200、 M ¥1,300~1,200。

長 崎 10kgDB2L ¥1,200~1,000、 L ¥1,400~1,200、 M ¥1,300~1,200。

【福岡市場】 販売量167トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥3,000~2,800、 L大 ¥2,800~2,400、 L ¥2,500~2,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥1,300~ 900、 L ¥1,500~1,300、 M ¥1,500~1,400。

長 崎 10kgDB2L ¥1,300~ 900、 L ¥1,500~1,400、 M ¥1,500~1,400。

供給(産地)の動き

北海道産の出荷も終盤となり、事前契約を残すのみとなっている。年明けの出回り量は大方の予想を大幅に上回り、市況は軟化したが、総じては高値販売となった。播種・育苗時に心配された天候も、3月は高気圧に覆われて晴れた日が多く、かなりの多照であったが、寒気の影響を受け気温は平年並みとなり、心配された育苗時の高温障害もなく、定植が順調に進んでいる。

府県の早生物は、暖冬で出荷は前進化し、3月は出回り増となったが、4月の出回り量は前年を下回り、減少幅が予想を大きく上回っている。極早生は豊作であったが、続く普通早生は曇雨天の日が多く、寡照で作柄は平年作型で推移していると言われている。特に、此処2～3年大豊作であった兵庫(淡路)では平年作と話している。

北海道産地

令和5年産の出荷は、ほぼ終了したが、不作と言われた割には出荷量が多く、総じて高値販売となったことで、生産者は好収入を確保した。ホクレンの販売対策が効を奏したとも言える。現在は、今年度の定植作業の最盛期にある。

降雨により地域別には多少の早い遅いはあるものの、定植作業の終了は平年並みと予想されている。定植後の初期生育は順調に進んでいると報告されている。

府県産地

静岡物の出荷は計画通り終了し、計画以上の好成績を収めた。続く長崎・佐賀も出荷は前進化したが、昨今は品種の切り替わりで、出回り量は予想を下回っている。長崎は既に終盤を迎え、主力産地は佐賀・兵庫・愛知になっている。いずれの産地も普通早生の生育はやや停滞気味で、作柄は平年作と見られている。

佐賀では、露地栽培のレクスターの収穫中だが、マルチ栽培に比べると球肥大はやや細いものの、多収穫品種なので反収は6トン前後はあるが、雨天が多く収穫作業は遅れ気味である。最近、病害の発生も目に付き、後続品種の生育が懸念される。七宝早生などは地上部(葉鞘)が細く、草丈が短く、豊作は期待できないし、中晩生は圃場格差が大きく作柄的には期待出来そうにないと聞く。

兵庫の主産地淡路島の作柄は平年作と言われている。現在の出荷は、極早生のレクスターが主力となっているが、昨年に比べると収量はかなり少ないと言う。淡路では此処数年来平均反収は7トンを上回る作型となっているが、今年は6.5トンが精々と言う。関係機関の4月15日の定点観測では、ターザン、もみじ3号、もみじ輝きのいずれも病害は少ないが、平年に比べ草丈は細くて短く、葉数は少ないと報告されている。

輸入の動き

3月の輸入は速報値で、22,576トン前年比116%。北海物の越年在庫減の情報を反映して、需要家の多くは輸入物に関心が深まったものの、産地情報に反する在庫増や流通段階での滞留増等に加え、北海物市況のギリ貧傾向を反映して、輸入量は予想をやや下回った。国別では、中国が20,670トン前年比112%、ニュージーランドが1,450トン前年比562%、オ

ーオーストラリヤが178トン前年比83%である。オランダが156トン前年比578%、タイが96トン前年比57%となっている。

中国、4月の入荷は雲南省だが、既に終了が近い。後続産地は新物の河南省、江蘇省、山東省と続くが、産地情報は未だ入手していない。現在の価格は雲南省産20kg・C&F・剥き玉 \$ 8.20、皮付き \$ 7.00 である。

ニュージーランド、今年の作付面積は4,951ha。播種後の天候に恵まれ生産量は前年比12%以上の増加になると報告されている。現在の価格は、20kg. C&F・7~8cm・¥2,000である。

5月の市況見通し

従来から5月は、府県物の旬と言われ出回り量が多く、価格も手頃になる時期だが、近年は早生系編重の産地が多くなり、旬の出回り量は減少傾向にある。特に、今年は主力産地の佐賀・兵庫では5月出荷の品種の作柄が昨年を下回る可能性が濃いと言われ、5月市況は前年よりかなり高値で推移すると予想している。現在の市況は市場ごとには多少の差があるものの、Lサイズの安値はkg ¥ 120の水準であるが、5月の中心的な相場はkg ¥ 120前後で推移すると予想している。(笹野敏和記)